

問題作成方針に関する検討の方向性

○新学習指導要領で示されている「情報Ⅰ」で育成を目指すこととされている資質・能力を重視したものとなるよう検討する。

○今回公表する試作問題は以下の考えの下で作成した。

・日常的な事象や社会的な事象と情報との結び付き、情報と情報技術を活用した問題の発見・解決に向けての探究的な活動の過程、及び情報社会と人の関わりを重視する。

・社会や身近な生活の中の題材や受験者にとって既知ではないものも含めた資料等に示された事例や事象について、情報社会と人との関わりや情報の科学的な理解を基に考察する力を問う問題などとともに、問題の発見・解決に向けて考察する力を問う問題も含めて検討する。

○試作問題の中にあるプログラム表記は、授業で多様なプログラミング言語が利用される可能性があることから、受験者が初見でも理解できる大学入試センター独自の日本語でのプログラム表記を用いた。令和7年度試験問題も同様の方向性で検討する。



問題作成方針

【令和7年度】

○日常的な事象や社会的な事象などを情報とその結び付きとして捉え、**情報と情報技術を活用した問題の発見・解決に向けて探究する活動の過程**、及び**情報社会と人との関わりを重視**する。

問題の作成に当たっては、**社会や身近な生活の中の題材**、及び受験者にとって既知ではないものも含めた資料等に示された事例や事象について、**情報社会と人との関わり**や**情報の科学的な理解を基に考察する力を問う問題**などとともに、**問題の発見・解決に向けて考察する力を問う問題**も含めて検討する。

○プログラミングに関する問題を出題する際のプログラム表記は、授業で多様なプログラミング言語が利用される可能性があることから、受験者が初見でも理解できる大学入試センター独自のプログラム表記を用いる。

参考【『旧教科「情報」』（令和7年度）】

○平成21年3月に告示された高等学校学習指導要領における情報科の選択必修科目である二つの科目「社会と情報」及び「情報の科学」に対応した問題を作成する。問題は、二つの科目に共通した必答問題とそれぞれの科目に対応した選択問題で構成する。

○情報社会と人との関わりや社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響、それらを問題解決の場面などで活用するための知識と技能、及び情報に関する科学的な見方や考え方を重視する。

問題の作成に当たっては、社会や身近な生活の中の題材、及び受験者にとって既知ではないものも含めた資料等に示された事例や事象について、情報社会と人との関わりや情報に関する科学的な見方や考え方を基に考察する力を問う問題などとともに、問題の発見・解決に向けて考察する力を問う問題も含めて検討する。

○選択問題としてプログラミングに関する問題を出題する際のプログラム表記は、授業で多様なプログラミング言語が利用される可能性があることから、受験者が初見でも理解できる大学入試センター独自のプログラム表記を用いる。

[令和7年度試験の問題作成の方向性、試作問題等 | 大学入試センター \(dnc.ac.jp\)](https://dnc.ac.jp) (2022.11.9、大学入試センター)

【問題作成方針のポイント】

・「情報と情報技術を活用した問題の発見・解決に向けて探究する活動の過程」や「情報社会と人との関わり」が重視される。

・社会や身近な生活の中の題材を用いて「情報社会と人との関わりや情報の科学的な理解を基に考察する力を問う問題」や「問題の発見・解決に向けて考察する力を問う問題」の出題が検討されている。